

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493400178	事業の開始年月日	平成21年4月1日
		指定年月日	平成21年4月1日
法人名	株式会社 アイシマ		
事業所名	グループホームほのぼの		
所在地	(246-0023) 神奈川県横浜市瀬谷区阿久和東4-32-3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成27年2月12日	評価結果 市町村受理日	平成27年7月9日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wp/Details.aspx?IGNO=ST1493400178&SYCD=320&THNO=14100
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは住宅街に位置し、道路を挟んで原小学校という恵まれた環境で利用者様は伸び伸びと生活しています。理念の一つに「地域やご家族との結びつきを大切にします」とあり、地域の祭りでは浴衣を着て踊り、又、玄関には鍵をかけず、近所の方が気軽に尋ねてくれる開放的で明るいホームとして知られています。小学校との交流も盛んで、利用者様と職員は、運動会で生徒と共に瀬谷音頭を踊り、又、2年生はホームに来て歌や劇の発表をします。家族とは、年2回は家族一緒にの行事を企画し今年の新年会も楽しみました。日常のケアは「出来ることを失わないケア」の実践に力をいれ、食器洗いやもやしの芽採り等、残存能力を大切にし、利用者様はいつも笑顔で自信に溢れ、職員、利用者をお問はず「ありがとう」の言葉が飛び交う温かいホームです。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成27年3月21日	評価機関 評価決定日	平成27年6月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、相鉄本線三ツ境駅からバスで「阿久和坂上」または「阿久和」バス停下車3～4分の住宅地にあります。原小学校の正門前に位置し、生徒との交流を深めています。

<優れている点>

理念に掲げた「地域やご家族との結びつきを大切にします」を実践しています。地域の盆踊り大会では利用者全員浴衣を着て参加し、櫓(やぐら)に上り中心になって踊っています。原小学校との交流も盛んで、毎年2年生が各クラスごとに来訪し、音読や合唱を披露したり、利用者と一緒に昔遊びを楽しんだりするなど交流を深めています。また、運動会でも生徒と一緒に地元の瀬谷音頭を踊って楽しんでいます。馴染みの場所で馴染みの人たちとの交流の場となっています。家族会を年2回開催すると共に行事への参加を案内し、利用者との結びつきを深めています。非常災害時や緊急時に誰でもが慌てず連絡できるように、事務所の電話の前の壁面には大きな119番通報のフローチャートや緊急連絡先一覧、緊急時マニュアル、避難場所の地図などを掲示しています。災害用備蓄品をユニットごとに用意し、首掛式LEDライトやLEDランタン、サイレン付超小型拡声器を事務所カウンターに常備し、緊急時に備えています。

<工夫点>

非常災害時に誰でもが調理対応できるように、朝・昼・夕の3日分の非常時献立表(常食、刻み、ミキサー食の3パターン)を作成し備えています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームほのぼの
ユニット名	のぞみ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を基に掲げられた理念を、入職時のオリエンテーションで職員に理解してもらい、理念に沿った統一したケアの実践につながるように取り組んでいます。又、ミーティング時には時々話し合いを持ち、ブレないように確認し合っています。	事業所の理念を事務室内の目に付くところに掲示し周知を図ると共に、ミーティングで理念に沿ったケアをしているか確認しています。新人にはオリエンテーションで理念とホームの方向性を説明し、理解を得ています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会は宮の越自治会に所属し、利用者や職員は、自治会の敬老会や昼食会に参加しています。向かいの原小学校とは、運動会で地域の踊り「瀬谷音頭」を一緒に踊ったり、2年生の授業の一環として訪問があり、学習の発表の場として提供するなどの交流があります。又、近所の方は遊びにいられます。	自治会に加入し、町内会の各種行事に積極的に参加し交流しています。原小学校児童の来訪や運動会への招待もあり、世代間の交流を行っています。事業所の新年会は近隣の人や家族、法人役員の参加もあり60名近くの大新年会となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の消防署主催の減災共助の会で、認知症の方の特徴や行動を知っていただき、災害時の対応を考えていただく為に講師を務めたり、ご近所の方や、見学者も受け入れ、実際のケアを見ていただく事もあり、又、相談があればアドバイスを行っています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1度の運営推進会議では、利用者の日常の報告はもとより、普段食べているおやつを試食をしていただき、大きさ、形、味などの批評やアドバイスもいただきます。又、利用者の楽しみが増えるようにメンバーに呼びかけ行事への参加をお願いします。	運営推進会議は年6回定期的に開催しています。事業所の運営状況や活動状況を報告し、活発な意見交換、質疑応答が行われています。委員からは助言も得て運営に活かしています。外部評価の実施や結果報告も行っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターの職員とは蜜に連絡を取り合い、事業所の開き情報や、困難事例に対して、互いに意見の交換を行っています。又、瀬谷区役所とは瀬谷区地域密着型サービス事業所連絡会を通じ意見交換や研修を行っています。	地域包括支援センターとは密接な協力関係を築き、情報交換や意見交換を行っています。また、区役所とは瀬谷区地域密着型サービス事業所連絡会を通じて連携を取り協力関係を築いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームは如何なるときも身体拘束は行いません。職員間のミーティングで日々のケアを見直し、何気ない行為が身体拘束になっていないかなど意見交換をして確認を行っています。又、開所当初から鍵をかけないホームとして運営を続けて来ました。	身体拘束や虐待など人権に関する研修や勉強会を事業所の内外で実施し職員の共通認識を図っています。ミーティングや日々の申し送りでその日のケアを振り返り、拘束に当たることはなかったかどうかを確認しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、内外の研修で学び、ホーム内でも研修を重ね、常に自分達のケアはどうか、ミーティングを行っています。又、互いのケアについて、気軽に意見が言えて、防止につとめるよう徹底しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行ったり、折に触れ制度について説明を行っていますが、入職新しい職員は理解するまでにはいたっていません。これからも理解が深まるように機会あるごとに話し合うように努めてまいります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、納得いくまで家族に説明し、不明な所はそのままにせず何でも質問していただくようにしています。そのため、その場の雰囲気作りに気を配り、コミュニケーション能力を高めるような努力もし、納得していただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を用意し自由に書いていただけるようになっていますが、書いてくださる家族はなく、職員が話しやすい雰囲気を作っているため、直接伝えてくれます。利用者も買い物や、お茶のみに行きたいなど言えて、実現できています。	玄関ホールにご意見箱を設置すると共に、ホームの苦情相談窓口と外部苦情申立機関のポスターを掲示し周知を図っています。家族の面会時や家族会、運営推進会議などを通じて利用者や家族の意見、要望を聞き、運営に反映するようにしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティング時に管理者からの報告や伝達に終始せず、必ず職員に意見を求めホームの運営に係わりを持つように働きかけ、良い意見やアドバイスがあれば取り上げ、業務改善をしています。又、発言しやすい雰囲気を作るように努力しています。	全体ミーティングやユニットごとのケアカンファレンスを行い、意見を聞くようにしています。また、日頃からミニミーティングを行い、職場の意見や提案を話し合い運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力や経験を基に資格の取得を勧め給与のアップに繋げたり、責任を持って生き生きと働けるように、それぞれの特性や能力に応じ仕事を選び任せるようにしています。又、同僚同士は先輩、後輩、年齢などに関係なく互いに尊重するように指導しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の法人の勉強会への参加やグループホーム連絡会の研修会、連携病院の研修への参加など研修参加への機会の確保や参加実績があります。職員も積極的に参加しています。又、資格取得の支援も活発で、本年度は、2名が介護福祉士資格に合格しました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	連絡会を通じ、交換研修やスタッフ研修を設けて、サービスや質の向上に取り組んでいます。また、個人的にも同業者と交流を持ち、ネットワーク作りをし、瀬谷区地域密着型サービス連絡会の年4回の交流では意見交換や情報交換を行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用される前に本人の情報を収集し、スムーズな入居、ホームでの生活につなげるように配慮しています。本人がホームでの生活に何を期待され、何が不安なのか、心に寄り添い親身になって傾聴することで安心していただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯をゆっくりと聞いてあげることによって家族は安心され、家族の希望や家族間の意見の違いなどもオープンに話してください。それを受け止め次の段階に繋がっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	柔軟な対応をとりつつ、時には他の事業所のサービスにつなげたり、改善に向けての支援の提供も行っています。又、「そのとき」だけでなく「少し先」まで見据えて、必要に応じ家族の支援も行いました。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ラッキョウ漬けや料理の下ごしらえ、洗濯物をたたんだりなど、日常の関わりの中で、それぞれ可能な限り個性に合わせた役割を持っていただき、共に支えあう関係を築いています。利用者の昔話などの会話を通じて、職員自ら学ぶ姿勢も大切にしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当ホームの理念にもあるように、家族との結びつきを大切にしています。どんな小さな変化でもお伝えすることを心がけ、家族と同じ思いで支援していることを伝えることにしています。又、ホームの行事に家族も参加していただき協力体勢を強化しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりの今までの生活環境を尊重し、これまでの馴染みの関係が維持できるように配慮しています。以前の町内の方や、同じ信仰の仲間がホームに尋ねてこられた時には、リビングを使っていたり、時には居室でゆっくり過ごしていただいています	旧知の人の面会時にも快く迎え、馴染みの関係が途切れないよう支援しています。また、電話や手紙などの連絡を取り持ち継続した関係が続くよう支援しています。馴染みの店での買い物や、遠方の家族に代わり墓参りに同行することもあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で仲良く過ごす時間や、気の合う人同士で仲良く過ごせるように気配りし、その場面作りを働きかけています。又、孤立されていると感じたときには、さりげなく職員が介入し、良好な関係が築けるように支援しているので仲間を労わる光景も数多く見られます		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した家族の方にも時々連絡させて頂き情報交換等、関係が途切れない様に努めています。又、グループホームへの入居を希望される方を紹介してくれたり、ケアが必要になった親族の相談に乗ることもあります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人ひとりの希望や意向を把握し、家族とも十分な話し合いに努め意向を汲む努力をしています。意思の把握が困難な方には、その時々々の場面においてその方の笑顔を基本にし、何をしたらより笑顔になるか、細かく観察し思いの把握に努めています。	利用者との日々の雑談の中から、また何気ない言葉や表情、仕草などから思いや意向を把握し、対応するように努めています。店で美味しいコーヒーを飲みたいという希望に応え、近くの喫茶店へモーニングコーヒーを飲みに出掛けるなど、一人ひとりに合わせて支援をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に入居までの経緯や成育歴、趣味、好きな食べ物、嫌いな食べ物、されて嫌なこと、嬉しいことなどの細かい情報を頂き、その情報から大きくかけ離れることがないように気を配り、馴染みの暮らしが継続出来る様に努めていると共に情報を共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者とのなにげない会話や仕草、顔色などの観察に努め、一日を通してできることやできないことを見極め、一人ひとりの生活のリズムを理解し、全体像の把握に努めています。又、把握した情報は朝、夕の申し送り時に伝え共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員の話し合いの中から、介護計画を作成しますが、特に家族や本人の思いは十分に反映させ、ドクターや、訪問看護師の意見も取り入れます。毎月1回は一人ひとりの見直しをし、期間の途中でも問題があれば現状に即したプランに変更しています	日々行うミニカンファレンスで利用者個々の思いを把握しており、家族の来訪時に家族の意向も聞いています。毎月のカンファレンスで日頃の状況や変化について話し合っています。必要に応じ医師や看護師の意見を入れ見直し、現状に即したケアプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子観察や実際行ったケアを個別に記録し、気付いた事や工夫を職員間で共有する事で統一したケアや見直しを行い、介護計画に生かしています。又、朝の申し送りでは、昨夜気づいた問題もその場でミニカンファをし、ケアの見直しに繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族と職員が必要に応じいつでもカンファレンスを行える様に努め、ドクターや訪問看護師の意見も直ぐに反映出来る体制が出来ています。又、家族にも協力を依頼し、その時々ニーズに対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源は地域ケアプラザや町内の回覧板などで把握し、参加できる場所にはできる限り顔を出し、地域の方と利用者との間で顔の見える関係になるような支援を続けており、敬老会に参加したり、学校の運動会や、盆踊りで踊ったり楽しんでいただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に添った医療体制をとり、必要に応じてホームの協力医だけではなく、昔からの馴染みの掛かりつけ医に月1回行かれるように支援しています。通院もご家族の対応が困難な時にはホームが対応します。介護タクシー等の手配も行います。	事業所として協力往診医、訪問歯科、訪問看護など、適切な医療を受けられる体制を整えています。本人及び家族の希望があれば、従来の医療機関での受診も支援しています。通院の際は家族の状況に応じて職員が付き添うなど、柔軟に対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問時に健康上の問題点を相談し、より良い生活が送れるようにアドバイスを受けます。そして、相談したいことは医療連携ノートを活用し、互いに情報の共有をし連携をとっています。緊急時には電話で指示を仰ぎ、必要に応じて医師につないでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、早期退院の為の話し合いや協力を家族と充分に行い、医療機関と協力し、速やかな退院支援をおこなっています。そのためには、協力医療機関だけでなく、近隣の医療機関とも情報の交換に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を契約時にお渡しし、必要になったときには、早い段階で家族や本人と充分に話し合い説明、同意を得ています。何よりも本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合い、利用者様が安心して穏やかな終末期を過ごして頂ける様に努めています。	契約時に「重度化における指針」を本人と家族に説明し、必要になった段階で話し合い、改めて契約して看取りの計画を立てています。職員は医師や看護師から看取りの研修を受け、関係者で方針を共有して支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、勉強会を実施して対応できるように取り組んでいます。食事時の咽込みや、物が詰まったときの対応など、すべての職員が対応処置できるように訓練を行っています。又、消防署での救急救命講習に毎年多数の職員が参加しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導により年2回の避難訓練をはじめ、避難経路の確認や消火器の扱い方の訓練を行っています。今年度も地域の方の協力で夜間想定訓練を行い、避難経路の再確認をすると共に「火を出さない！」ことを意識付けました。東日本大震災後、災害用備蓄品を見直し充実させましたが、今年度も、期限切れの缶詰などの交換をしています。	地域の人の協力も得て避難訓練を行っています。災害用備蓄品を用意し、災害時3日分の献立表を作成して備えています。見た目も楽しく役に立つ首掛式ライトやランタン、サイレン付超小型拡声器をカウンターに常備し、利用者には、地震の際にテーブルの下に身を寄せる練習も行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に、デリケートなトイレ誘導時の声かけや排泄時には、最新の配慮を持って臨み恥ずかしい思いやいやな気持ちにさせないように気配りし、常に気持ちよく安心して暮らせ、信頼関係がより深まるように努めています。	職員は、利用者が不快感を持たず安心して生活できるように心がけ、一人ひとりの心身状態や表情を汲み取って接しています。気になる対応がある場合には、管理者をはじめ職員間でも話題にあげて、職員個々の意識を喚起しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつの時などに好きな飲み物や食べ物を選んでいただき、特に、新年会の昼食はバイキングですので、家族と一緒に好きなものを好きなだけ摂って頂くなどの機会を設け自己決定を促しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを大切に守り、その時々のお気持ちに寄り添い柔軟な対応を心がけ、決して無理強いせず、本人のお気持ちを一番大切にするよう心がけています。又、今までの暮らしを継続していただくために情報の収集に力を入れ、皆で共有しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人で決められる方は本人にお任せしています。決められない方は家族の意向に添うように心がけて支援をしています。散髪は定期的にされ、毛染めや、パーマをかける方もおられます。又、外出時には職員と服の色を選び、口紅を差す支援もしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように、利用者同士の関係に配慮して食卓の座席配置を考え、盛り付けや片付けも利用者と共に行い、嗜好の情報収集に役立てています。	職員は、利用者との日常の会話などをふまえて毎日献立を考えています。毎月定例のレストランへ出かけるほか、寿司やサンドイッチなどをビュッフェ形式にして好きなものを選んでもらったり、外食したりと、趣向を凝らしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取状況を毎日チェック表に記録し、全職員が常にかかるようにしています。体調にあわせ、おかゆや刻み、ミキサーにするなど個々に合った形態で提供しています。又、彩にも気を配り3品以上用意し、水分は1300cc摂る事を目標にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口の中の状態に応じて、ご自身でされる方や職員がケアする方などまちまちですが、それぞれの方にふさわしいケアを心がけています。日々のケアで問題を発見したときには週1回訪問している歯科医師に報告し、治療や口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間で誘導したり声かけをし、出来るだけトイレでしていただけるように努力しています。又、夜間多量の失禁がある方には、水分摂取の時間に配慮しています。。	職員は、排泄表や利用者の仕草や言葉から利用者個々の排泄パターンの把握に努め、極力、トイレで排泄できるように誘導しています。毎日、体操をした後に牛乳とバナナを10時のおやつとして食べることにしており、便秘予防に役立っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として、10時のおやつに牛乳とバナナを召し上がっていただき、全員が毎日、または1日おきに排便が見られ「便秘知らず」のホームとして誇りを持っています。水分摂取量にも気配りし、運動も毎日ラジオ体操と介護体操を音楽に合わせて行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯は本人の意思を尊重しています。一人ひとりのタイミングでどのように誘えば喜んでもらえるかを常に考えて取り組んでいます。又、あまり乗り気でないときには、誘う職員を変えたり、間隔をあけて再度誘うこともしています。	入浴は一日おきを基本としています。予備日もとって、利用者個々の状況に応じて臨機応変に入浴支援をしています。入浴を好まない利用者には、声掛けを工夫してしています。季節に応じて菖蒲湯や柚子湯、入浴剤を使用しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクリエーション活動を取り入れながら一人ひとりの生活リズムに合わせて休息できる様に支援しています。その方の習慣や思いを大切に無理強いしないように勧めています。又、3時以降は、夜間の安眠に備えて心を静め、穏やかに過ごしていただけるように環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を指定の場所に保管をし、内容を把握出来る様にしています。与薬時は1袋の名前を確認2名前を呼び返事を求め（出来る方）3もう一度名前を確認する等3段階を徹底し、服薬方法は其の方に適した方法で行います（口の中に直接、又は手の平）		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが役割を持ち、生き生きと生活できるように個々を見極め支援しています。役割は、洗濯物干し（たたみ）、掃除や台所の洗い物など多岐にわたっています。それに対し職員も感謝の気持ちをお伝えしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や本人の体調や希望に合わせて散歩、買い物、さらに、時々家族と共に外出されています。月2回送迎バスを利用し、音楽療法にも出掛ける機会も月に2回あります。又、月に1回はレストランに昼食を食べに行くなど外へ出掛ける機会を多く設けています。	散歩や買い物は日常的に出かけ、そのほかに毎月定例で音楽療法とレストランへ出かけています。また、花見やみかん狩り、近隣の小学校や町内会の行事に招かれるなど、多くの外出の機会があり、戸外の空気に触れ、多数の人々との交流があります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金に接していないとADLの低下につながることを理解しており、家族よりお小遣いを預かっている方は、外出時や外食時に出来る限り自身で支払ってもらい、領収書を小遣い帳に貼り、残高を職員と一緒に確認する支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望によりいつでも電話をかけて頂いたり、手紙・ハガキ等も出して頂ける様に配慮し、年賀状を出す方もいます。ご家族に対しては、気軽に電話が出来る雰囲気づくりに努力し、又、友人から手紙が届いたときにはお礼の電話をするように支援しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングなど共用部分は特に室温、湿度に気をつけ、換気にも留意した快適な空間を提供しています。カーテン越しのやわらかい日差しや、利用者と職員の力を合わせた作品も飾ってあり、心地よさを感じていただいたりホッとする空間にもなっています。	広々とした建物内は換気も掃除も行き届き、快適な住環境となっています。テーブルのほかに、畳敷きのベンチや大きなソファ、窓際にはこじんまりとしたテーブルと椅子を用意するなど、利用者が思い思いに寛げるような配慮をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに椅子やソファを置き、仲の良い利用者同士でくつろげる様に配慮されています。又、一人静かに過ごしたい時は、そのように過ごせるコーナーを隅の方に設けてあります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の方と相談しながら馴染みの物や家具を選んで貰い、心地よく過ごせる工夫をしています。又、趣味なども継続していただく為に、書物を持ち込まれたり、好みの綺麗な花や風景の写真を貼っていただいています。	利用者は、長年愛用している馴染みのダンスや家族の写真、仏壇、好みの書籍、テレビなど、大切な品々や必要な物に囲まれて生活しています。一人ひとりの好みに沿った、生活感が感じられる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部を出来るだけ自立した生活が送れるように工夫し、室内の動線には、物を置かない配慮をしています。特に車椅子の配置には、自立の方の動きの妨げにならないように気を配り、常に安全に配慮し、施設内の点検をこまめに行うようにしています。		

事業所名	#REF!
ユニット名	なごみ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を基に掲げられた理念を、入職時のオリエンテーションで職員に理解してもらい、理念に沿った統一したケアの実践につながるよう取り組んでいます。又、ミーティング時には時々話し合いを持ち、ブレないように確認し合っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会は宮の越自治会に所属し、利用者や職員は、自治会の敬老会や昼食会に参加しています。向かいの原小学校とは、運動会で地域の踊り「瀬谷音頭」を一緒に踊ったり、2年生の授業の一環として訪問があり、学習の発表の場として提供するなどの交流があります。又、近所の方は遊びにこられています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の消防署主催の減災共助の会で、認知症の方の特徴や行動を知っていただき、災害時の対応を考えていただく為に講師を務めたり、ご近所の方や、見学者も受け入れ、実際のケアを見ていただく事もあり、又、相談があればアドバイスを行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1度の運営推進会議では、利用者の日常の報告はもとより、普段食べているおやつを試食をしていただき、大きさ、形、味などの批評やアドバイスもいただきます。又、利用者の楽しみが増えるようにメンバーに呼びかけ行事への参加をお願いします。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターの職員とは蜜に連絡を取り合い、事業所の開き情報や、困難事例に対して、互いに意見の交換を行っています。又、瀬谷区役所とは瀬谷区地域密着型サービス事業所連絡会を通じ意見交換や研修を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームは如何なるときも身体拘束は行いません。職員間のミーティングで日々のケアを見直し、何気ない行為が身体拘束になっていないかなど意見交換をして確認を行っています。又、開所当初から鍵をかけないホームとして運営を続けて来ました。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、内外の研修で学び、ホーム内でも研修を重ね、常に自分達のケアはどうか、ミーティングを行っています。又、互いのケアについて、気軽に意見が言えて、防止につとめるよう徹底しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行ったり、折に触れ制度について説明を行っていますが、入職新しい職員は理解するまでにはいたっていません。これからも理解が深まるように機会あるごとに話し合うように努めてまいります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、納得いくまで家族に説明し、不明な所はそのままにせず何でも質問していただくようにしています。そのため、その場の雰囲気作りに気を配り、コミュニケーション能力を高めるような努力もし、納得していただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を用意し自由に書いていただけるようになっていますが、今までに書いてくださる家族はなく、職員が話しやすい雰囲気を作っているため、直接伝えてくれます。利用者も買い物や、お茶のみに行きたいなど言えて、実現できています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティング時に管理者からの報告や伝達に終始せず、必ず職員に意見を求めホームの運営に係わりを持つように働きかけ、良い意見やアドバイスがあれば取り上げ、業務改善をしています。又、発言しやすい雰囲気を作るように努力しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力や経験を基に資格の取得を勧め給与のアップに繋げたり、責任を持って生き生きと働けるように、それぞれの特性や能力に応じ仕事を選び任せるようにしています。又、同僚同士は先輩、後輩、年齢などに関係なく互いに尊重するように指導しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の法人の勉強会への参加やグループホーム連絡会の研修会、連携病院の研修への参加など研修参加への機会の確保や参加実績があります。職員も積極的に参加しています。又、資格取得の支援も活発で、本年、2名が介護福祉士資格に合格しました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	連絡会を通じ、交換研修やスタッフ研修を設けて、サービスや質の向上に取り組んでいます。また、個人的にも同業者と交流を持ち、ネットワーク作りをし、瀬谷区地域密着型サービス連絡会の年4回の交流では意見交換や情報交換を行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用される前に本人の情報を収集し、スムーズな入居、ホームでの生活につなげるように配慮しています。本人がホームでの生活に何を期待され、何が不安なのか、心に寄り添い親身になって傾聴することで安心していただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯をゆっくりと聞いてあげることによってご家族は安心され、家族の希望や家族間の意見の違いなどもオープンに話してください。それを受け止め次の段階に繋がっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	柔軟な対応をとりつつ、時によっては他の事業所のサービスにつなげたり、改善に向けての支援の提供も行っています。又、「そのとき」だけでなく「少し先」まで見据えて、必要に応じ家族の支援も行いました。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ラッキョウ漬けや料理の下ごしらえ、洗濯物をたたんだりなど、日常の関わりの中で、それぞれ可能な限り個性に合わせた役割を持っていただき、共に支えあう関係を築いています。利用者の昔話などの会話を通じて、職員自ら学ぶ姿勢も大切にしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当ホームの理念にもあるように、家族との結びつきを大切にしています。どんな小さな変化でもお伝えすることを心がけ、家族と同じ思いで支援していることを伝えることにしています。又、ホームの行事に家族も参加していただき協力体勢を強化しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりの生活環境を尊重し、地域にいる馴染みの友人や知人に訪問してもらったり、継続的な交流ができるように支援しています。又、単身の方でも、友人との絆が絶えないような支援を重ね交流が継続されています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で仲良く過ごす時間や、気の合う人同士で仲良く過ごせるように気配りし、その場面作りを働きかけています。又、孤立されていると感じたときには、さりげなく職員が介入し、良好な関係が築けるように支援しているので仲間を労わる光景も数多く見られます		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した家族の方にも時々連絡させて頂き情報交換等、関係が途切れない様に努めています。又、グループホームへの入居を希望される方を紹介してくれたり、ケアが必要になった親族の相談に乗ることもあります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人ひとりの希望や意向を把握し、家族とも話し合いに努め意向を汲む努力をしています。意思の把握が困難な方には、その時々々の場面においてその方の笑顔を基本にし、何をしたらより笑顔になるか、細かく観察し思いの把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に入居までの経緯や成育歴、趣味、好きな食べ物、嫌いな食べ物、されて嫌なこと、嬉しいことなどの細かい情報を頂き、その情報から大きくかけ離れることがないように気を配り、馴染みの暮らしが継続出来る様に努めていると共に情報を共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者との何気ない会話や、仕草の観察に努め、さらに情報を共有し正しい見極めが出来る様に努めています。又、何事もお先走らず、ゆっくり見守り、出来ること、出来ないことを正しく見極め「出来ることを失わないケア」につなげています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員の話し合いから、介護計画を作成しますが、特に家族や本人の思いは十分に反映させ、更に、ドクターや、訪問看護師の意見を入れます。毎月一回は一人ひとりの見直しをし、期間の途中でも問題があれば現状に即したプランに変更しています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子観察や実際行ったケアを個別に記録し、気付いた事や工夫を職員間で共有する事で統一したケアや見直しを行い、介護計画に生かしています。又、朝の申し送りでは、昨夜気づいた問題もその場でミニカンファをし、ケアの見直しに繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族・職員と必要に応じいつでもカンファレンスを行える様に努め、必要に応じ、ドクターや訪問看護師の意見も直ぐに反映出来る体制が出来ています。。又、家族にも協力を依頼し、その時々ニーズに対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源は地域ケアプラザや町内の回覧板などで把握し、参加できる場所にはできる限り顔を出し、地域の方と利用者との間で顔の見える関係になるような支援を続けており、敬老会に参加したり、学校の運動会や、盆踊りで踊ったり楽しんでいただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に添った医療体制をとり、必要に応じてホームの協力医だけではなく、昔からの馴染みの掛かりつけ医に週一回リハビリに行かれるように支援しています。通院もご家族の対応が困難な時にはホームが対応します。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問時に健康上の問題点を相談し、より良い生活が送れるようにアドバイスを受けます。そして、相談したいことは医療連携ノートを活用し、互いに情報の共有をし連携をとっています。緊急時には電話で指示を仰ぎ、必要に応じて医師につないでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、早期退院の為の話し合いや協力を家族と充分に行い、医療機関と協力し、速やかな退院支援をおこなっています。そのためには、協力医療機関だけでなく、他の医療機関の地域医療連携室とも情報交換を行い関係作りに努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を契約時にお渡しし、必要になったときには、早い段階で家族や本人と充分に話し合い説明、同意を得ています。何よりも本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合い、利用者様が安心して穏やかな終末期を過ごして頂ける様に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、勉強会を実施して対応できるように取り組んでいます。食事時の咽込みや、物が詰まったときの対応など、すべての職員が対応処置できるように訓練を行っています。又、消防署での救急救命講習に毎年多数の職員が参加しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導により年2回の避難訓練をはじめ、避難経路の確認や消火器の扱い方の訓練を行っています。今年度も地域の方の協力で夜間想定訓練を行い、避難経路の再確認をすると共に「火を出さない！」ことを意識付けました。東日本大震災後、災害用備蓄品を見直し充実させましたが、今年度も、期限切れの缶詰などの交換をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、明るい表情で利用者と接するように心がけ、利用者が嫌悪感や負担感を感じることが無いように、さりげない介護の実践に努めています。接遇についてもホーム独自の行動の指針を設け、態度や言葉遣いなどを勉強会や支援の場で確認しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩の場所を選んで頂いたり、飲みたい物を選んで頂いたり複数の選択肢の中から個々に選んで頂き、自身が決定する喜びを味わっていただいています。又、自己決定を働きかけたことにより、利用者は、生き生きと生活を楽しまれています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを大切に守り、その時々々の気持ちに寄り添い柔軟な対応を心がけ、決して無理強いせず、本人の気持ちを一番大切にするよう心がけています。又、今までの暮らしを継続していただくために情報の収集に力を入れ、皆で共有しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人で決められる方は本人にお任せしています。決められない方は家族の意向に添うように心がけて支援をしています。散髪は定期的にされ、毛染めや、パーマをかける方もおられます。又、外出時には職員と服の色を選び、口紅を差す支援もしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者同士の人間関係に配慮し、座席を決定し、食事の時間も楽しく過ごして頂ける様な工夫をしています。又、食後の食器洗いのお手伝いは人気があり、希望者も多いので当番制になっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	彩りよく3品以上配膳し、水分は1日1300ccを目標に摂っていただいています。栄養のバランスには気をつけて、一日の中で使用する食材が偏ることなく、又、色彩的にも、赤、黄、緑だど偏ることが無いようにメニューを考えて調理しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口の中の状態に応じて、ご自身でされる方や職員がケアする方などまちまちですが、それぞれの方にふさわしいケアを心がけています。日々のケアで問題を発見したときには週1回訪問している歯科医師に報告し治療や口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間で誘導したり声かけをし、出来るだけトイレでしていただけるように努力しています。又、夜間多量の失禁がある方には、3時のおやつの時までに一日の必要量近くまで摂っていただき、夕方からは調整させていただくなどの工夫をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日1回はおやつに牛乳とバナナを摂って頂き便秘予防をしています。又、毎日行うラジオ体操や散歩、雨の日や寒い時期には室内ウォーキングも取り入れ、更に、盆踊りで楽しく体を動かしてもらい、其のおかげで入居当初便秘だった人も改善されています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	誘導の方法や、タイミングを計って誘うことにより気持ちよく入浴して頂いています。私たちの都合に合わせることなく、あくまでも利用者に合わせてお勧めしています。又、それぞれの季節に、菖蒲湯やゆず湯など楽しんでいただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクリエーション活動を取り入れながら一人ひとりの生活リズムに合わせて休息できる様に支援しています。その方の習慣や思いを大切に無理強いしないように勧めています。又、3時以降は、夜間の安眠に備えて心を静め、穏やかに過ごしていただけるように環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を指定の場所に保管をし、内容を把握出来る様にしてしています。与薬時は1袋の名前を確認2名前を呼び返事を求め（出来る方）3もう一度名前を確認する等、3段階を徹底し服薬方法は其の方に適した方法で行います（口の中に直接、又は手の平）		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが役割を持ち、生き生きと生活できるように個々を見極め支援しています。役割は、洗濯物干し（たたみ）、掃除や台所の洗い物、更に玄関先のお客様のお出迎えなど多岐にわたっています。それに対し職員も感謝の気持ちをお伝えしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や本人の体調や希望に合わせて散歩、買い物、さらに、時々家族と共に外出されています。月2回送迎バスを利用し、音楽療法にも出掛ける機会も月に2回あります。又、月に1回はレストランに昼食を食べに行くなど外へ出掛ける機会を多く設けています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金に接しないとADLの低下につながることを心配し、家族よりお小遣いを預かり、外出時や外食時に出来る限り自身で支払ってもらい、領収書を小遣い帳に貼り、残高を職員と一緒に確認する支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望によりいつでも電話をかけて頂いたり、手紙・ハガキ等も出して頂ける様に配慮しています。家族に対しては、気軽に電話が出来る雰囲気づくりに努力し、又、友人から手紙が届いたときにはお礼の電話をするように支援しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の料理や、おやつ、ひな祭り、菖蒲湯、クリスマス飾り等、季節感を取り入れる工夫をし利用者が穏やかに過ごせるよう環境に配慮しています。壁面のちぎり絵も職員との共作で季節を感じて頂き、畳敷きのベンチではせんたくものをたたむ姿も見られます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに椅子やソファを置き、仲の良い利用者同士でくつろげる様に配慮されています。ソファで犬を撫でながら一緒に過ごされる利用者や、犬を介してお話が弾む利用者の穏やかな様子も良く見られます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の方と相談しながら馴染みの物や家具を選んで貰い、心地よく過ごしてもらおう工夫をしています。思い出の写真なども飾って頂いています。又、仏壇なども持ち込まれ、居心地の良い居室になるように支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は出来るだけ自立した生活が送れるように工夫し、室内の動線には物を置かない配慮をしています。特に電気製品のコードなどに注意し、危険を感じたらすぐ配置を替えます。このように、職員は常に安全に配慮し、点検や気配りをしています。		

平成26年度

目標達成計画

事業所名 グループホームほのぼの

作成日： 平成 27年 7月 12日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	21	ほのぼの入居者は高齢化が進み、それに伴い一部の方は認知症の進行もあり、利用者様同士の交流も難しくなっています。その為、孤立しがちになり、寂しい思いをされることもあるのではないかと。	孤立されがちな利用者様の笑顔が増え、他の利用者様との交流が可能になる。	①職員は積極的に声掛けや促しで係わる。②ご本人の気持ちや思いの収集に努める。③職員が利用者間の媒介になり、中を取り持つ。	6ヶ月
2	17	此処のところ利用者様の出入りが多く、新規の利用者様が入居したことによって既存の利用者様の生活が乱されることがあります。	新規の利用者様が入居されても既存の利用者様が落ち着いた環境で暮らすことが出来る。	①ご家族よりたくさんの情報を頂く。②職員間の速やかな情報の共有③ケアプランに反映させ実行する。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月